

乳児期からの幼児肥満の予測

いずみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：乳児，急速体重増加，食欲，幼児肥満，予測

要 旨

2～4歳頃に「ぽっちゃり」した児の肥満度は20～30%程で，小学高学年には肥満度が50%を超える高度肥満になるリスクが高い。乳児期に3歳頃の肥満を予測し，対象を絞り身体計測を密にし，肥満の予防的介入を行う試みをまとめた。出生時体重が大，特に乳児期前半の過剰体重増加，両親の肥満，人工栄養，妊娠中の母親の喫煙・過剰体重増加などが必要情報として挙げられ，実用化を目指した簡単予測手段も考案されたが，感度，特異度は不十分である。

乳児期に過剰体重増加を示す児は，旺盛な食欲が指摘され，遺伝学的に裏付けられた肥満体質と関連している。諸種因子に関する啓蒙と共に，旺盛な食欲を助長しない対策を検討する必要がある。

はじめに

日本では小学高学年の高度肥満児（肥満度50%以上）は1.4%程いるが，そのような児の相当数は，小学校低学年では肥満度30～40%の中等度肥満児である¹⁾。さらに，そのような児の相当数は，3歳児健診頃は肥満度が20%台か，せいぜい30%台である^{2,3)}。

米国では肥満の度合いは，“肥満流行”前の資料に基づくBMI成長曲線上の95thパーセンタイル値（P）の1.2倍（99thPに相当）を「重症

肥満」とするが，3歳児の肥満度28%は概ね，肥満度をP表示した場合，99thPに相当する³⁾。3歳頃は，本来，痩せ体型が進む時期で，この頃の「ぽっちゃり」は，将来の高度肥満に繋がる可能性の高い重大事である。

米国マサチューセッツ州では，3～5歳でBMI \geq 95thの児は2004年まで15%程いたが，2008年に男児13%，女児10%と減少傾向を認めた⁴⁾。日本では幸いに，1980年前後を参照年とするBMIの成長曲線上で，5歳児のBMI \geq 95thPの頻度は1995年頃の約8%をピークに既に減少傾向にあり，2007年に約6%になった⁵⁾。また，3歳児健診の場では，近年は「ぽっちゃり」児の母親の多くは我が児を「健康的」とせず，肥満の心配をし，

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613